



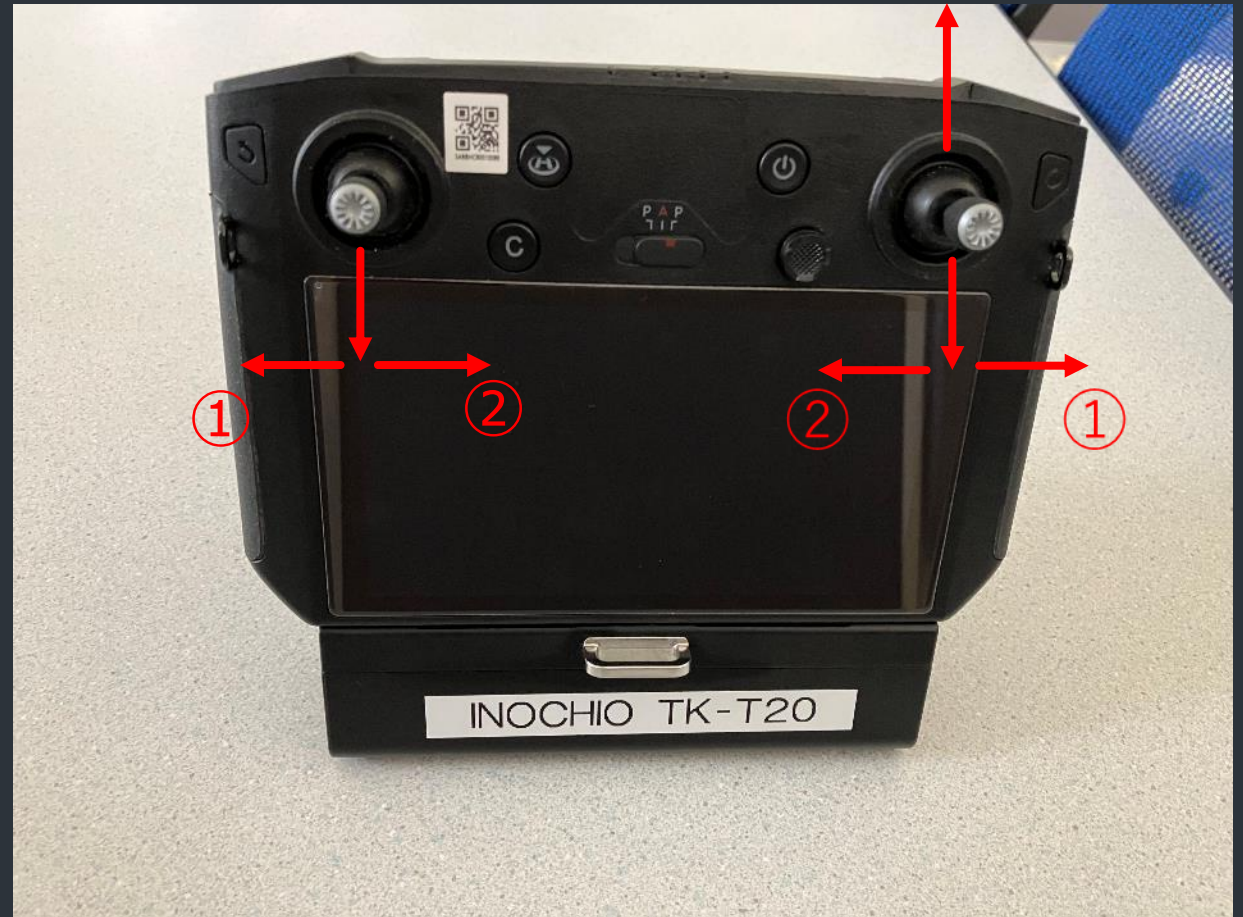
# T10,T30マニュアル (散布～散布後)

イノチオプラントケア株式会社

# 1.離陸する

モーターを始動させるには、  
八の字（外側①）または逆八  
の字（内側②）に両スティックを倒す。（下に倒し、その  
まま横に倒す）

モーターが回転し始めたら一  
度スティックを戻し、その後  
右スティックを上によりゆっくり  
倒し、機体を上昇させる。

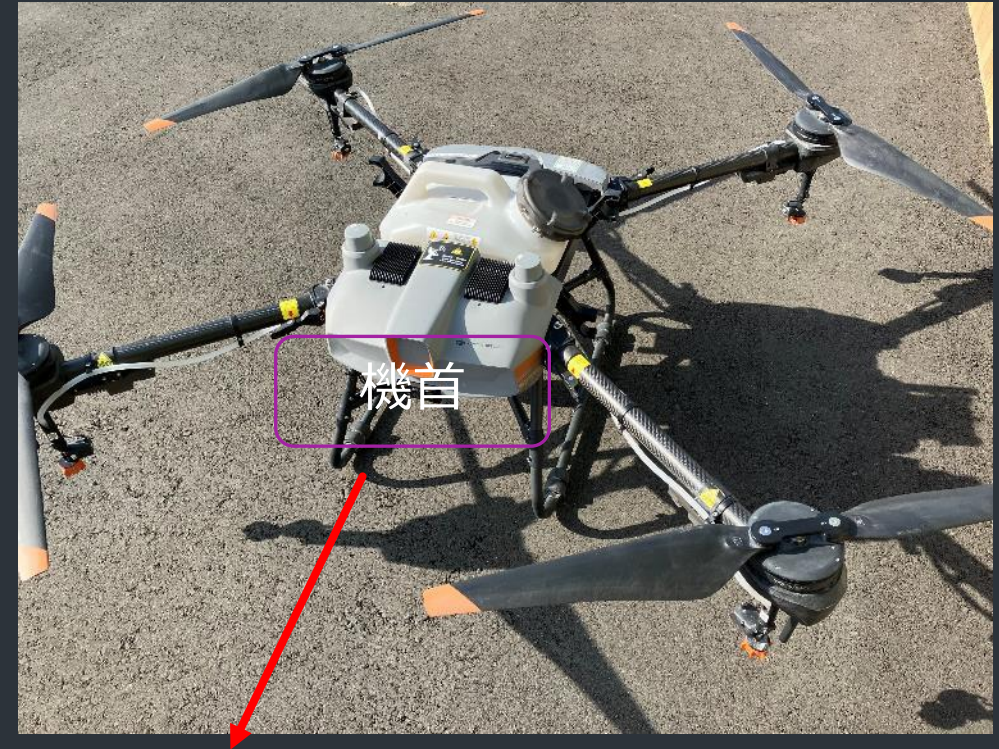


# 1. 離陸する

機体を上昇させ、散布開始位置まで移動させる。

機首が進行方向をまっすぐ向くように調節する。

オペレーターは常に機体の後ろ側にいること。



進行方向

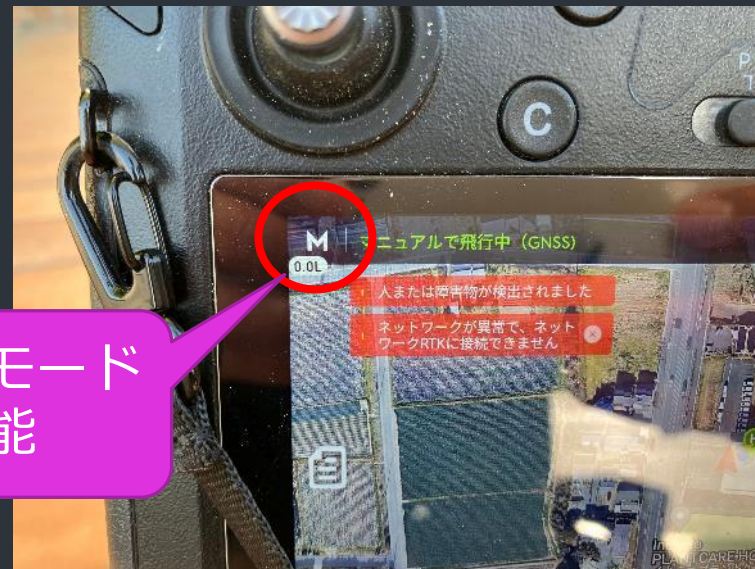
## 2. 散布開始

- ▶ **マニュアル(M)** : 噴霧量、飛行速度、作物からの高さなどをダイヤル、スティックで調節して散布するモード。機体の制御をオペレーターが行うため、操作技術を要する。
- ▶ **マニュアルプラス(M+)** : 噴霧量、飛行速度、作物からの高さ、散布幅を自動制御するモード。機首がロックされるため、マニュアルと比べ操作技術に左右されず安定した散布ができる。



## 2. 散布開始

- ▶ **A-Bルート(AB)** : A・B点を定め線で結び、その線に対して平行に移動しながら自動散布するモード。機体の制御をすべて自動で行うため、オペレーターの作業は主にA・B点の指定、バッテリーや薬剤の補充のみ。形が整っている大きな圃場での使用が望ましい。



「M」からモード  
選択可能



## 3.M+モード

- ▶M+(手動プラス)をタップ
- ▶「操作設定」からha当たり散布量、飛行速度、散布幅、飛行高度を設定する(画像はT10)
- ▶ディスプレイ右下の「開始」をタップ

※「開始」をタップした時点で切り替わるため、機体をスタート位置にホバリングさせ、進行方向を合わせてから設定すること



## 3.M+モード

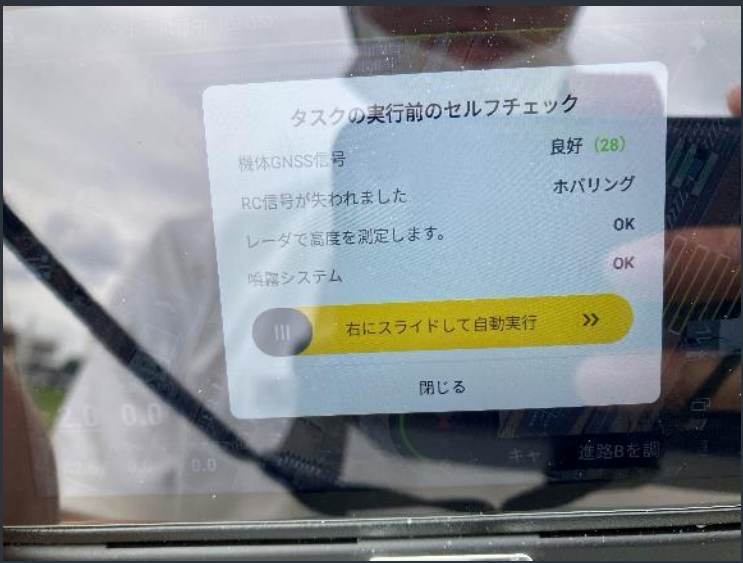
### M+のポイント

- ▶前方・後方に加速するとき自動的に噴霧し、機体が停止すると噴霧も停止するため、散布ボタンを押さなくてよい(粒剤散布の場合は一度だけ押す必要あり)
- ▶前後に移動するときはスティックを倒しきる
- ▶横移動は好きなボタンに割当て可能(プロポ設定→カスタムボタン)
- ▶機首はロックされるが、スティックでの横移動は可能なため、進路を調節できる

## 4.A-Bルートモード

- ▶AB(A-Bルート)をタップ
- ▶散布開始位置に機体を合わせ、「A」をタップして登録する
- ▶散布停止位置に機体を移動させ、「B」をタップして登録する
- ▶「方向変更」で移動する方向を設定する
- ▶M+と同様に散布の設定を行い、右下「作業開始」をタップ
- ▶セルフチェックでエラーがないことを確認し、スライドして作業開始





## 4.A-Bルートモード

バッテリー切れ、薬剤切れの際は一時中断してその位置を記録する。補充後に「継続」をタップすると中断地点まで戻り、自動航行を再開する。**※補充中に送信機の電源を切らないこと**

リターンポイントを選択し、再開位置を指定できる。進行方向に障害物があるときなどにそれを避けて自動航行を継続できる。

機体を前後左右に動かすことでも一時中断可能。  
ABモードを終了する場合は「停止」をタップする。





## 4.A-Bルートモード

### A-Bルートのポイント

- ▶Aポイント設定後、Bポイントを設定するまではマニュアルモードのため、手動で散布しながらBポイントに向かう
- ▶スタート後は手動操作で止めるか、障害物検知、バッテリー切れ、薬剤切れで一時中断する。それ以外では止まらないため機体から目を離さない
- ▶ABルートが圃場に対して斜めにずれている場合、ずれが徐々に大きくなってくるので最初のポイント設定は慎重に行う(修正したい場合は再設定)

## 5. 散布終了後

- ▶ タンクの中に残った薬剤を排出し、タンク内部、注入口と排出口のフィルターを流水とブラシで洗浄する。排出した薬剤は道路や水路に流さず、容器で受けて適切に処理する。
- ▶ 排出口を閉めてタンクに水を入れ、吐出を開始する。ポンプとホース内の薬剤を排出する。
- ▶ ノズルを外し、流水とブラシで洗浄する。先端のノズルチップが詰まりやすいのでしっかり洗浄する。
- ▶ 固く絞った雑巾でプロペラ、ボディに付着した薬剤を拭く。プロペラの裏側にも付着しているので、しっかり両面拭くようにする。

※防水性は高いが、機体に直接水をかけないほうがよい





タンクフィルター(注入口)

タンクフィルター(排出口)



ノズル

## 6. バッテリー取扱い

- ▶ 炎天下直射日光のもとにさらさず、風通しのよい日陰や冷房の効いた車内に置くようにする。
- ▶ 使用後は高温になるため、充電する際はしばらく冷ましてから行う。
- ▶ 散布終了後は日の当たらない涼しい場所で保管する。付着した農薬は拭き取る。
- ▶ 冬など散布しない時期については、暖房が効き最低室温が氷点下を下回らない家の中に置いて保管する。
- ▶ セルバランスの異常がみられるバッテリーについては使用せず、販売店へ連絡する。